

新聞に親しみ、自己の思考力・判断力・表現力を磨いていく生徒の育成

日南市立細田中学校
教諭 小林直子

1 はじめに

NIEは、世界共通の活動であり、今なお広がっている。また、閲読習慣が身に付くことでOECDの調査で「読解力向上に新聞は有効」と出ている。本校は、日南市南部の自然豊かな地にあり、素直で温厚な生徒が多い。しかし、新聞を購読していない家庭が多く、自分の力で行くことができる距離に図書館がないなど、なかなか新聞を読む環境をつくることができない。したがって、新聞に触れる機会をつくり、授業等で新聞を使って学習内容を身に付けさせたり、学習したことを生かして新聞を作らせたりすることで、思考力、判断力、表現力を磨くことができるのではないかと考える。NIEを通して、社会への関心を高め、言語活動を活性化し、学力の向上にもつなげていきたい。

2 実践の仮説

学校全体や授業で、NIEに取り組むことで思考力、判断力、表現力を生かして意欲的に言語活動を行うことができるだろう。

3 実践の内容

- (1) 新聞に親しむための学校全体における組織的な取組の工夫
- (2) 授業における新聞に触れる機会の確保の工夫
- (3) 思考力、判断力、表現力を生かして自ら新聞を書く取組の工夫

4 実践の実際

- (1) 新聞に親しむための学校全体における組織的な取組の工夫

① 掲示の工夫

ア 「新聞コーナー」の設置

学校に届けられる新聞2社のその日の朝刊を教室前に設置した。1週間分は、テーブルに置くようにすることで、見る機会を増やすようにした。学習文化委員会の生徒が毎朝設置した。

イ 「先週の1面」の掲示

1週間分の新聞の第1面をまとめて掲示することで、教室移動の際、見るようにした。学習文化委員会の生徒が毎週掲示した。



【設置した「新聞コーナー」】



【掲示した「先週の1面」】

② 朝の時間の活用

毎週火曜日朝8時から8時15分を「NIEタイム」として各学年の実態に応じてNIE活動を行った。まず、1週目は、「災害、命、政治など自分の決めたテーマに沿った記事をもって来てスクラップ記事にまとめる。」2週目は、「まとめた記事をグループで発表し、感想を話して交流する。」とした。さらに、学年の実態に応じて、グループで発表したものを生かして、朝の会や帰りの会で1分間スピーチを行った。作成した新聞スクラップは、教室の後方に個別で掲示した。

日本新聞協会のNIE（教育に新聞を）実践指定校となつている日南市の細田中で、新聞作りの出前授業を開いた。生徒は夏休み中、地域を回って各自のテーマで取材済み。授業ではそれぞれを説明にして、紙面にすることを説明した。ポイントは何を取材して、最も訴えたいことは何かを明確にすること。例えば、ある生徒は地域の防災対策を取材し、避難場所を知らない人が多かったので、知らせる工夫が大切と答える。次に、その「訴えたいこと」を10文字前後に要約、つまり見出しにする。これが難しい。余分な言葉を削り、一番肝心な部分だけを残す。生徒も苦労していたが、出来上がった壁新聞にどんな見出しが並ぶか楽しみだ。来月の校内文化祭で披露される。（俣野秀幸）

■ 俣 太 郎

細田中

学んだ成果 紙面化
生徒新聞 文化祭で披露



日本新聞協会のNIE実践指定校となつている日南市の細田中（前田校長）で22日、校内文化祭があり、生徒が制作した新聞が保護者に披露された。宮崎日日新聞社の記者が指導する出前授業。一学校に宮日が行ったのは7月から3回開き、生徒が記事の書き方や見出しの付け方、レイアウトなどを学んできた。1年生は教人グループで壁新聞、2・3年生は一人一人が4サイスの新聞を制作。文化祭で同校体育館に張り出された。1年生の壁新聞では、地区のミカン農家を取材し、栽培にさまざまな工夫が施されている様子を「細田『地産地消』活性化」の見出しと記事で伝えた。2年生は理容室や保育園など、それぞれが職場体験の内容を紙面化した。3年生は防災や観光イベントなどを取材して記事を書き、見出しやレイアウトも工夫。福祉施設を取材した生徒は、介護職の離職率が年々増加している現状を伝え、「介護の魅力伝えていきたい」と書いた。熱心に見入っていた保護者の一人は、「この新聞もよくまとまってる」と褒めていた。（俣野秀幸）

5 各取り組みの成果と課題

(1) 新聞に親しむための学校全体における組織的な取組の工夫について

成果： 組織的に、新聞を読み、スクラップ新聞を書き、多くの記事についてスピーチを聞き、感想を話して交流するなど、多様な言語活動を積み重ねることで、新聞を読む機会を作ることができた。

課題： 週に一度、15分の活動では、活動のつながりの意識が薄れてしまうので、他活動との兼ね合いもあるが、一定の連続した日を設定して取り組ませたい。

(2) 授業における新聞に触れる機会の確保について

成果： 学習内容と社会的事象をつなげることができた。

課題： 国語科として、全学年で新聞を生かす機会を増やすとともに、他教科とも連携してNIEの機会を増やしたい。

(3) 思考力、判断力、表現力を生かして自ら新聞を書く取組について

成果： 宮崎日日新聞社から講師に来ていただき、的確に教えてもらったことで、生徒の意欲も高まり、職員も共通して具体的な指導をすることができた。

課題： 来年度以降どのように継続させていくかを検討したい。

6 全体を通した成果と課題

成果： 教室前に置かれた新聞を手にして談笑する生徒の姿を見かけることが増えたと感じている。新聞を読んだ方がよいという意識を高めることができた。

課題： 年度当初にとったアンケートでは、第3学年で23人中14人の家庭で新聞が購読されていた。そのうち、家で新聞を読んでいる生徒は、8人であった。2年生では、16人中7人の家庭が購読し、うち4人の生徒が家で読んでいる。1年生では、19人中11人の家庭が購読し、うち10人の生徒が家で読んでいる。家に新聞があっても読まない生徒もいれば、家庭で新聞を購読してなくても読みたいと思う生徒もいる。新聞を読む必要性を感じない生徒は、3年生で7人、2年生で11人、1年生で6人。彼らの意識を少しでも刺激していき、新聞の継続的な閲覧習慣につなげ、実態の把握に努めたい。

新聞取り入れる

細田中3年 湯地 楓

私は、総合的な学習の時間で職場体験で学んだことを壁新聞にまとめました。前日の方に来ていただき、取材の方法、写真の撮り方や載せ方などアドバイスをもらいました。その中で、一番気に入ったのが見出しでした。どうしたら、読む人が気留めしてくれるだろうかと考えた末、ようやく一つの壁新聞が出来上がりました。

新聞を作るのはこんなに大変だったのかと知った時、大変な思いで見つけた新聞が、まさかこんな面白かった。思いがけず、新聞はこんなに面白い。思いがけず、新聞はこんなに面白いです。

「新聞は面白い」そう思って読んでいた新聞。しかし、新聞はニュースよりも手軽に詳しく説明しているのです。

毎日新聞を作っている方々の苦労や大変さ、そして新聞の素晴らしさを学びました。これからはもっと日常生活でも、新聞を取り入れたいと思います。

日南市